

三雲学区景観まちづくり ～わがまち 再発見！！～

趣旨・目的

これからのまちづくり・地域づくりは、地域内に既にある魅力的な資源を活かし、その地域らしい豊かさが実感できる社会、次世代が地域に愛着と誇りを感じて暮らし続けられる社会づくりに、地域住民が力を合わせて取り組むことを通じて築いていくことが重要ではないでしょうか？

景観まちづくりは、地域の個性を大事にするまちづくりであり、三雲学区では、4回のワークショップを通じて、参加者の皆さんが、改めて地域の魅力に気づき、次世代にどのような郷土を伝え、そのために何から取り組んだら良いのか、意見交換して想いを集約していきました。

三雲学区景観まちづくりワークショップ 各回の概要（第1回～第3回）

	第1回：現状評価	第2回：将来展望	第3回：実地踏査
日時	平成26年3月24日（月）午後7時30分～	平成26年4月17日（木）午後7時30分～	平成26年5月10日（土）午前9時～
会場	柑子袋まちづくりセンター	みくも地域人権福祉市民交流センター	柑子袋まちづくりセンター
プログラムの概要	<p>●趣旨・目的の説明</p> <p>⇒ワークショップ開催の趣旨・目的や湖南市の景観づくりについて理解</p> <p>●三雲学区の良いところ・悪いところ</p> <p>⇒グループに分かれて、三雲学区の良いところ、悪い所について意見交換</p>	<p>●10年後、20年度、三雲地域はどうなっている？</p> <p>⇒三雲地域の①街並み、②おもてなし、③交通安全、④担い手の4つについて、10年後、20年後の将来には、どのような状態になっていそうか。また、どのようになりたいか。</p> <p>●私たちには何ができる？何をしたい？</p> <p>⇒参加者が望む将来の姿の実現に向け、今から取り組むべきこと、取り組みたいことについて考え、意見交換。</p>	<p>●東海道まちあるき</p> <p>⇒東海道の街並みを実際に歩いて、その特色を再確認</p> <p>●東海道の街並みの特色は？</p> <p>⇒まちあるきで得た東海道の街並みについての情報、気づきについてグループごとに話し合い、共有化</p>
意見（抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> ○旧家、社寺、日本瓦の屋根など昔ながらの街並みが残っている ○旧東海道の街並みを後世に残したい ○旧道の安全性を向上させるため、広域農道を延伸したり電柱を地中化してはどうか ○うつくし松、弘法杉など固有の自然がある ○街道を歩く人のための休憩所がある ○休憩所、トイレの充実が必要 ○見どころマップをつくる ○住民に一体感があり、お祭りが残っている ○空き家が発生している ○空き家を地域のサロンに活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①東海道の街並みについて <ul style="list-style-type: none"> ○東海道らしい街並みを継承したい ○若者がどのような建物を望んでいるかわからない ○建替え等のガイドラインが必要 ○プランターなどによる花と緑の充実 ②おもてなしについて <ul style="list-style-type: none"> ○休憩場所、案内看板、トイレが不十分 ○有志でカフェやギャラリーを開いておもてなし ③交通安全について <ul style="list-style-type: none"> ○安全に歩ける空間の確保 ○一方通行化や速度規制など自動車の通行を制限 ④担い手について <ul style="list-style-type: none"> ○次世代とのコミュニケーションをとる ○祭りや歴史、郷土料理など地域文化を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ○瓦屋根やべんがら格子が多くあって風情がある ○建替えた家でも街並みに配慮したものがあって良い ○生垣や板塀がきれい ○きれいに手入れされたお庭、植栽がある ○吉永のごみステーションが修景されていて良い ○道路わきのせせらぎが清々しい ○空き家、空き地が多い（適正管理、景観誘導が必要） ○電柱、電線が目障り ○集合住宅の色調が街並みと調和していない ○竹やぶの整備・活用、常夜灯近くの橋の修景 ○ところてんやお酒など名物の復活



三雲学区景観まちづくりワークショップ 各回の概要（第4回）

第4回：共通認識の確認	
日時	平成26年5月21日（水）午後7時30分～
会場	柑子袋まちづくりセンター
プログラムの概要	<p>●東海道の街並みのこれからをどう考える？ ⇒ワークショップを通じて浮かび上がってきた参加者全体の想いを確認</p> <p>●東海道の街並みに影響を与える要素は？ ⇒どのような要素が街並み景観に大きな影響を与えそうか、写真を見比べるなどして意見交換</p> <p>●住民主体で実践したくなるまちづくりプロジェクトを考えよう！ ⇒自分たちでできる取り組み、やってみたい取り組みについて、具体的な企画を話し合いながら機運を高め合いました。</p>
意見	<p>●東海道の街並みに大きな影響を与える要素は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色彩が重要。カーポートやフェンス等を街道に設置する場合も、どのような色彩にするかで印象が大きく変わる ・屋根の形状も重要。東海道は平入りの建物が多いので妻入りの建物は違和感がある ・壁面の素材も街並みにあったものが良い <p>●住民主体で実践したくなるまちづくりプロジェクトを考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと食文化継承プロジェクト ・空き家・空き地活用プロジェクト ・プランター増設プロジェクト ・名所旧跡看板づくりプロジェクト ・家づくり勉強会プロジェクト ・東海道から電柱をなくすプロジェクト

次世代へつなげよう！ 落ち着いたある東海道の街並み

～ 歩いて感じよう、こころ安らぐ きずな街道 ～
（三雲学区景観まちづくりワークショップ）

三雲学区の歴史は、東海道と切っても切り離せません。東海道は、三雲学区にとって重要な地域資源であり、地域のアイデンティティー、地域への愛着と誇りを抱かせるシンボルです。

東海道沿いには、地域の歴史を物語る様々な史跡やいわれのある場所、伝統行事の舞台となる神社仏閣などがあります。

また、東海道に面して昔ながらの家屋や板塀、手入れの行き届いた生垣、土塀などが連なり、街道らしい風情ある街並み景観をつくりだしています。

そして、先人が積み重ねてきた歴史文化の香りを街並みから感じ取りながら、私たちは、花のプランターやガーデニングで街道を行きかう人々の目を楽ませようとしたり、道中の安全を祈ってお地蔵さんの花が枯れないように生け換えたり、手作りの休憩所を設置するなど、おもてなしの活動にも取り組んでいます。

かつては日本の各地に当たり前にあった昔ながらの温かみのある風景、おもてなしの心ですが、三雲学区のように今も残されている地域は少なくなってきています。もしも、街道らしい独特の風情を醸す東海道の街並み景観から、瓦屋根や格子、板塀などがすっかりと失われてしまったとしたら、三雲学区はとて大きな地域資源を喪失してしまうこととなります。

街道らしい風情ある街並み景観の喪失は、地域に対する住民の愛着と誇りが損なわれたり、若者の流出に拍車がかかったり、おもてなしの活動が衰退してしまうなど、大きな影響を与える可能性があります。

私たちは、三雲学区景観まちづくりワークショップを通じて、『東海道の街並みの魅力を再確認し、これからも街道らしい風情ある街並み景観を継承していきたい』、という想いが共通のものであることを確かめました。

そして、その想いを現実のものとするために、街並み景観に関するルールの検討や自分たちにできる街並みづくり活動など、何らかの方策を講じるべきである、との想いに至りました。

今後は、東海道の街並みを継承するための具体的な取り組みを検討するなど、実践、実現に向けて継続的に進めていくことが大切です。

まずは、私たち住民一人ひとりが街並みをつくったり、継承したりする当事者としての意識を持ち、東海道を散策して季節ごとの楽しみを見つけたり、自ら花を育てて潤い豊かな景観づくりに協力するなど、身近な活動から始めていきます。

三雲学区景観まちづくりワークショップメンバー 一同

